

令和元年度

栄村一般会計並びに各特別会計  
歳入歳出決算審査意見書

栄村監査委員

# 令和元年度 栄村一般会計並びに各特別会計

## 歳入歳出決算審査意見書

地方自治法第233条第2項並びに第241条第5項の規定に基づき、村長から審査に付された令和元年度栄村一般会計並びに10特別会計の歳入歳出決算書について、関係諸帳簿、証拠書類と共に審査を実施した結果は、下記のとおりです。

### 記

#### 1 審査対象

- |      |       |                           |
|------|-------|---------------------------|
| (1)  | 令和元年度 | 栄村一般会計歳入歳出決算書             |
| (2)  | 〃     | 栄村国民健康保険特別会計（事業勘定）歳入歳出決算書 |
| (3)  | 〃     | 栄村国民健康保険特別会計（施設勘定）歳入歳出決算書 |
| (4)  | 〃     | 栄村秋山診療所特別会計歳入歳出決算書        |
| (5)  | 〃     | 栄村後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算書      |
| (6)  | 〃     | 栄村介護保険特別会計歳入歳出決算書         |
| (7)  | 〃     | 栄村簡易水道特別会計歳入歳出決算書         |
| (8)  | 〃     | 栄村生活排水処理特別会計歳入歳出決算書       |
| (9)  | 〃     | 栄村農業集落排水特別会計歳入歳出決算書       |
| (10) | 〃     | 栄村スキー場特別会計歳入歳出決算書         |
| (11) | 〃     | 栄村ケーブルテレビ特別会計歳入歳出決算書      |

#### 2 審査期間

令和2年7月31日、8月3日、4日、5日、7日の5日間

#### 3 審査の方法

決算審査に当たっては、各会計の決算書（決算事項別明細書、実質収支に関する調書及び財産に関する調書）について、関係諸帳簿、証拠書類等照合すると共に、会計管理者、各課等の長、担当者から説明を受けて次の点を主眼に審査を実施しました。

- (1) 予算の執行が、地方自治法その他関係法令及び予算の主旨に則って適正かつ効率的に行われているか。
- (2) 財産及び基金の管理運用は適正であるか、財政は健全であるか。
- (3) 決算数値は、正確で過誤はないか。

## 4 審査の結果

各会計の歳入歳出決算書及び附属書類は、関係諸帳簿、証拠書類によって内容を検討し照合した結果、決算数値については正確であると認めます。以下、次のとおり報告します。

### 一 般 会 計

#### [歳入]

予算現額 4,080,771,000 円

歳入決算額 3,429,551,863 円

予算現額に対する歳入総額の割合は 84.0%（前年度 99.6%）であった。

歳入総額は前年対比 89.3%、金額で 412,029,870 円の減となった。

以下、主な項目について申し上げます。

#### 第 1 款 村 税

(1) 村税の収入総額は 213,317,345 円で、前年対比 120.0%（前年度 94.6%）であった。

村民税では、79,903,736 円で前年対比 175.2%、法人村民税は 8,984,600 円で前年度対比 117.7%となっている。合計では 88,888,336 円で、前年対比 166.9%と大幅な増となっている。これは個人村民税での譲渡所得収入の増が主な要因である。

固定資産税は 108,941,643 円で前年対比 100.9%であった。入湯税は 2,185,398 円で前年を 20.2%ほど大きく下回り、村たばこ税は 5,895,968 円で前年から 12.1%減少した。軽自動車税は 7,406,000 円で前年を 3.2%上回った。

徴収率（調定額に対する徴収額）は 98.1%で昨年より 1.0%上回った。

村税の歳入構成比は 6.2%、前年に対し 1.6%の増となっている。

(2) 村税の収入未済額については、過年度滞納繰越分も合せて、村民税個人 1,058,920 円、固定資産税 2,554,829 円、軽自動車税 103,100 円、合計 3,716,849 円で、前年対比 70.8%となった。滞納額の減少が見られるが、引き続き回収に努められたい。

#### 第 2 款 地方譲与税

自動車重量譲与税、地方揮発油譲与税、新規の森林環境譲与税を合わせて、総額 66,393,006 円であった。前年対比 107.7%で、歳入構成比は 1.9%である。

## 第6款 地方消費税交付金

総額 35,428,000 円であった。前年対比 94.7%である。

## 第8款 環境性能割交付金

令和元年度から新たに交付となったもので、総額 2,073,000 円である。

## 第9款 地方特例交付金

税込減収特例交付金 1,491,000 円と、子ども子育て支援臨時交付金 3,730,000 円の合計 5,221,000 円交付となったもので、前年対比 1544.7%と大幅に増となっている。

## 第10款 地方交付税

総額 1,774,159,000 円で前年対比 118.0%となった。普通交付税 1,565,670,000 円、特別交付税 208,489,000 円であった。歳入構成比は 51.7%となった。(前年度 39.1%)

## 第13款 使用料及び手数料

総額は 35,554,536 円で、前年対比 108.3%となった。収入未済額は 158,390 円で、前年の 704,010 円から 545,620 円減少した。残りの未済額についても鋭意回収に努められたい。

## 第14款 国庫支出金

総額 177,529,800 円で前年対比 78.6%と、48,326,333 円の大幅な減少となった。歳入構成比は 5.2%となった。(前年度 5.9%)

## 第15款 県支出金

総額 210,901,089 円で、前年対比 93.3%である。  
歳入構成比は 6.1%となった。(前年度 5.9%)

## 第16款 財産収入

総額 27,770,848 円で前年対比 120.7%であった。収入未済額は 241,924 円となり前年より 154,444 円増えている。回収に努められたい。

## 第17款 寄付金

総額 30,672,180 円で前年対比 18.4%で前年から 135,738,009 円、大幅に減少した。一般寄付金は 8,162,180 円、指定寄付金(農業振興事業)は、22,510,000 円であった。

## 第18款 繰入金

財政調整基金、ふるさと創生基金、栄村東日本大震災復興交付金、栄村震災復興特別基金、農業振興基金、義務教育施設整備基金、森林環境整備基金の7基金より 385,497,736 円を繰り入れた。前年度比 42.3%となっている。歳入構成比は 11.2%(前年度 23.7%)である。

## 第19款 繰越金

総額 125,973,753 円で前年対比 102.3%となっている。歳入構成比は 3.7%である。

## 第20款 村債

(1) 前年対比 98.7%で、歳入構成比は 8.4%となっている。

種類別の起債額は

過疎対策事業債	129,200,000 円
臨時財政対策債	50,600,000 円
災害復旧事業債	48,500,000 円
学校教育施設等整備事業債	48,800,000 円
緊急防災・減債事業債	10,600,000 円
計	287,700,000 円

(2) 村債の令和元年度末未償還元金は 2,889,048,000 円となり、前年度より 8,976,000 円の増加となっている。

## [歳出]

予算現額 4,080,771,000 円

歳出決算額 3,082,918,098 円

予算現額に対する歳出決算額は 75.5%であった。前年度対比 85.5%となり、金額で 522,689,882 円の大幅な減少となった。但しこれは災害復旧などの翌年度繰越が 719,731,000 円あったため、これを含めると実質では 197,041,118 円の増であり、前年度対比も 105.5%と多くなっている。

## 第1款 議 会 費

予算現額 41,591,000 円に対し、支出済額 41,279,410 円であり支出歩合は 99.3%であった。前年対比支出済額 2,222,161 円の減となり前年対比 94.9%であった。

## 第2款 総 務 費

予算現額 488,076,000 円に対し、支出済額 450,309,640 円であり支出歩合は 92.3%であった。前年対比支出済額 417,210,785 円の大幅な減となり前年対比 51.9%であった。

## 第3款 民 生 費

予算現額 575,546,000 円に対し、支出済額 515,622,965 円であり支出歩合は 89.6%であった。前年対比支出済額 70,422,903 円の増となり前年対比 115.8%であった。

翌年度繰越額が 275,000 円ある。

## 第4款 衛 生 費

予算現額 195,898,000 円に対し、支出済額 177,307,630 円であり支出歩合は 90.5%であった。前年対比支出済額 10,302,274 円の減となり、前年対比 94.5%であった。

## 第5款 労 働 費

予算現額 20,648,000 円に対し、支出済額 17,886,313 円であり、支出歩合は 86.6%であった。前年対比支出済額 8,857,430 円の大幅な増となり、前年対比 198.1%であった。

## 第6款 農林水産業費

予算現額 397,415,000 円に対し、支出済額 324,479,885 円であり、翌年度繰越額 57,621,000 円のため、支出歩合は 81.6%であった。前年対比支出済額 106,898,543 円の減となり、前年対比 75.2%であった。

## 第7款 商 工 費

予算現額 325,401,000 円に対し、支出済額 282,031,390 円であり、翌年度繰越額 10,345,000 円のため、支出歩合は 86.7%であった。前年対比支出済額 51,936,414 円の減となり、前年対比 84.4%であった。

## 第8款 土 木 費

予算現額 343,187,000 円に対し、支出済額 325,612,460 円であり、翌年度繰越額 6,500,000 円のため、支出歩合は 94.9%であった。前年対比支出済額 208,211,863 円の大幅な減となり、前年対比 61.0%であった。

## 第9款 消 防 費

予算現額 158,253,000 円に対し、支出済額 150,150,866 円であり、支出歩合は 94.9%であった。前年対比支出済額 5,371,221 円の増となり、前年対比 103.7%であった。翌年度繰越額は 1,327,000 円である。

## 第10款 教 育 費

予算現額 289,850,000 円に対し、支出済額 260,184,755 円であり、支出歩合は 89.8%であった。前年対比支出済額 77,108,167 円の大幅な増となり、前年対比 142.1%であった。

翌年度繰越額は 2,310,000 円である。

## 第11款 災害復旧費

予算現額 934,681,000 円に対し、支出済額 237,295,321 円であり、翌年度繰越額は 641,353,000 円のため、支出歩合は 25.4%であった。前年対比支出済額 111,082,831 円の大幅な増となり、前年対比 188.0%であった。

台風 19 号による豪雨災害により、道路、農業施設の災害復旧費が大幅に増え、翌年度繰越となっている。

## 第12款 公 債 費

予算現額 302,325,000 円に対し、支出済額 300,757,463 円であり支出歩合は 99.5%であった。

長期債償還金元金	291,381,162 円	前年対比	101.2%
長期債償還金利子	9,361,841 円	前年対比	80.0%
一時借入金利子	14,460 円	前年対比	139.8%

公債費の歳出構成比は 9.8%であった。

## 特 別 会 計

10 特別会計の歳入総額は 1,134,406,685 円（予算現額に対し 95.2%）、歳出総額 1,113,572,457 円（予算現額に対し 93.4%）であった。

一般会計からの繰入金は 302,607,335 円（前年比 116.1%）であった。

長引く景気の低迷、・停滞状況の中で、一般会計の繰入金は増加しました。今後、各会計とも厳しい運営が予想されます。計画的予算執行と効率的な運営、自主財源の確保に一層の努力を望みます。

なお、各会計とも未納、未収額の回収に努力が見られますが、一層の回収に努められたい。

以下、各特別会計について報告します。

### 1 国民健康保険特別会計（事業勘定）

歳入総額 282,387,035 円（前年対比 108.1%）

歳出総額 273,649,261 円（前年対比 109.5%）

- 国民健康保険税については、歳入に占める割合は 13.1%となっている。税の滞納繰越額は年度当初で 3,620,322 円となっていたものが、2,650,135 円となり回収が進んでいるが、引き続き回収に努められたい。なお、高額滞納者等に対して解りやすい説明をして理解を得られたい。一般会計繰入金他 31,859,072 円（前年対比 208.9%）となっている。

### 2 国民健康保険特別会計（施設勘定）

歳入総額 114,133,348 円（前年対比 100.3%）

歳出総額 110,170,693 円（前年対比 106.2%）

- 栄村診療所費は 54,486,722 円、歯科診療所費 9,099,853 円であった。一般会計繰入金他 39,369,000 円（前年対比 90.9%）となっている。

### 3 秋山診療所特別会計

歳入総額 3,952,054 円（前年対比 70.6%）

歳出総額 3,928,560 円（前年対比 70.4%）

- 歳入、歳出ともに前年度を下回った。

### 4 後期高齢者医療特別会計



歳入総額 28,439,266 円(前年対比 100.6%)

歳出総額 28,046,975 円(前年対比 100.5%)

- 一般会計繰入金 13,190,909 円 (前年対比 93.6%)、収入未済額は▲600 円である。

## 5 介護保険特別会計

歳入総額 390,859,600 円 (前年対比 101.0%)

歳出総額 388,340,568 円 (前年対比 102.1%)

- 一般会計繰入金 73,942,850 円 (前年対比 104.0%)、収入未済額は 72,100 円となっている。

## 6 簡易水道特別会計

歳入総額 81,830,255 円 (前年対比 54.5%)

歳出総額 79,751,683 円 (前年対比 54.0%)

- 使用料、過年度分含めて 1,016,380 円の未済額となっている。前年度より多少下回っているが回収に努められたい。  
一般会計繰入金 46,900,000 (前年対比 98.3%) となっている。

## 7 生活排水処理特別会計

歳入総額 64,402,621 円 (前年対比 120.6%)

歳出総額 64,087,721 円 (前年対比 120.8%)

- 使用料、過年度分含めて 347,415 円が未済額となっている。回収が見られるが更なる回収に努められたい。  
一般会計繰入金は 13,100,504 円 (前年対比 119.7%) となっている。

## 8 農業集落排水特別会計

歳入総額 15,731,717 円 (前年対比 98.9%)

歳出総額 14,741,541 円 (前年対比 101.7%)

- 使用料の未済額が 23,160 円となっている。回収に努められたい。  
一般会計繰入金は 7,000,000 円 (前年対比 100.0%) となっている。

## 9 スキー場特別会計

歳入総額 92,939,169 円 (前年対比 68.9%)

歳出総額 92,168,024 円 (前年対比 68.5%)

- 来場者数は延べ 8,821 人、前年対比 64.2%であった。売上収入も 18,317,392 円で前

年対比 67.0%にとどまった。営業日数 75 日。

一般会計繰入金は 74,405,000 円（前年対比 102.4%）となった。

## 10 ケーブルテレビ特別会計

歳入総額 59,731,620 円（前年対比 101.7%）

歳出総額 58,677,431 円（前年対比 100.5%）

- 使用料の収入未済額が 0 円となった。翌年度繰越額が 1,837,000 円。  
一般会計繰入金は 2,840,000 円（前年対比 277.3%）であった。

## [財 産]

### 1 出資による権利・出捐金

出資による権利の年度中の増減はなく、長野県農業信用基金協会等 9 件 94,795,000 円となっている。

出捐金については、長野県信用保証協会の 474,600 円となっている。

### 2 基金

- (1) 一般会計基金の期首合計は、2,279,111,730 円（14 基金）となっている。

剰余金積立・予算積立・利子積立、合計 240,759,130 円が積立され、栄村東日本大震災復興交付金基金等 7 基金で 385,497,736 円の取崩しがあった。

令和元年度末基金総額は 2,134,373,124 円（16 基金）となっている。

- 克雪対策基金の資金貸付状況は年度末貸付残が、団体貸付 1 件、個人貸付 35 件、39,058,000 円となっている。

滞納者もあり、滞納金が 4,821,700 円となっている。基金の効率運用の為にも償還方法等の見直しを検討され、回収策を講じていただきたい。

- 奨学資金貸付金額は、18,945,000 円、前年対比 95.9%となっている。滞納が散見されるが、前年に続いて、件数、金額が減って来ている。

- (2) 特別会計の基金

国民健康保険財政調整基金・介護保険支払準備基金の 2 基金で 92,009,272 円の期首残額となっている。

剰余金積立・利子積立で 8,011,815 円が増額され、18,628,000 円取崩し、令和元年度末基金総額は 81,393,087 円（2 基金）となっている。

住民負担軽減のため、予算積立も講じていただきたい。

## [財 政]

### (1) 決算収支の概要について

財政分析資料で報告のとおり、普通会計収支決算の実質収支は 304,688 千円の黒字だが、実質単年度収支については 47,224 千円の赤字となっている。今後、景気の先行き不透明な状況の中、状況を把握しながら財源の確保に努め、弾力的、効率的予算執行と財政の健全運営に努めていただきたい。

### (2) 経常収支比率

本年度 79.6% (前年 88.0%) となっている。

財政構造の弾力性を示すもので 70%程度が望ましいとされている。

### (3) 公債費比率

公債費の一般財源に占める割合は 2.6% (前年 2.9%) となっている。

財政構造の健全性で 10%を超えないことが望ましいとされている。

### (4) 実質公債費比率

地方債協議・許可の制限に係る指標で本年度 6.5% (前年 6.1%) となっている。

起債時の協議から許可に移行する基準は 18%となっています。

### (5) 自主財源と依存財源

本年度決算比率は、自主財源 25.1% (前年 38.3%)、依存財源 74.9% (前年 61.7%) となっている。

## ◎工事請負費について

一般会計工事請負費 426,961,886 円 前年対比 95.7%

特別会計工事請負費 92,236,322 円 前年対比 67.1%

試査したところ、適正であった。

主なものは、

農林水産業費 農山漁村地域整備交付金事業 (元・2)  
林道秋山線法面改良工事 41,316,000 円

商工費 観光施設等修繕工事 24,237,508 円

土木費 社会資本整備交付金事業  
箕作泉平線工事 52,382,000 円

消防費 消防施設整備工事  
五宝木地区ヘリポート建設工事 15,840,000 円

教育費	小学校関連工事（明許繰越）		
	ブロック塀・冷房設備		38,664,000 円
	トイレ改修		36,288,000 円
災害復旧費	農地災害復旧工事		
	台風 19 号豪雨災害応急工事他 38 件		33,092,030 円
	公共土木国庫災害復旧工事（台風 19 号）		97,819,000 円
	公共土木村単災害復旧工事（台風 19 号）		11,557,700 円
生活排水処理事業特別会計			
	浄化槽設置工事	10 基	26,614,200 円
ケーブルテレビ特別会計	CATV機器更新工事		41,040,000 円

## ◎各種団体等補助金、交付金について

○栄村コミュニティ助成事業補助金	1,500,000 円	（坪野区長）
○栄村集体公民館改修事業補助金	684,000 円	（小滝公民館）
○観光推進事業補助金	19,000,000 円	（栄村秋山郷観光協会）
○人間ドック補助金	1,959,000 円	（日帰り 115 名、1 泊 3 名、脳 1 名）
○中山間地域等直接支払交付金	37,941,368 円	（白鳥協定団地等 19 団地）
○多面的機能支払交付金	17,179,064 円	（白鳥農村環境保全会他 14 組織）
○集落支援交付金	10,379,700 円	（前年度 7,848,700 円）
○若者定住マイホーム支援事業	5,000,000 円	（新築 2 件、改築 1 件）
○起業支援事業補助金	3,251,000 円	（栄村物産センター・きぼう）
○高校生等通学費補助金	1,432,930 円	（高校生等 39 名）
○社会福祉協議会活動事業費補助金	64,150,000 円	（栄村社会福祉協議会）
○地域医療介護総合確保事業補助金	43,536,000 円	（きぼう）
○民間賃貸住宅建築補助金	11,506,540 円	（竹花組）
○新規雇用奨励事業補助金	13,580,000 円	（北信生コン他 9 社）
○各種団体活動育成事業補助金	100,000 円	（野々海水利組合）
〃	50,000 円	（菅沢農地利用組合）
〃	900,000 円	（菅沢堆肥センター組合）
〃	440,000 円	（栄村青少年育成協議会）
〃	500,000 円	（文化活動団体）

等が支出された。

## ◎ 人件費及び臨時的任用職員賃金

本年度の支給額は 797,451,120 円であり、一般会計、特別会計総支出額 4,196,490,555 円の 19.00%にあたる。支給額は前年比 101.1%となっている。

科 目	元年度 (円)	前年比 (%)	30 年度 (円)	前年比 (%)	29 年度 (円)	説 明
報 酬	61,308,405	97.7	62,783,277	100.9	62,227,118	議員、各審議会等委員報酬
給 料	264,467,869	95.5	276,814,399	99.3	278,739,549	理事者、職員 76 名 (内 4 名派遣)
職員手当	146,734,962	104.8	139,956,108	85.4	163,936,528	議員、理事者、職員 76 名 (内 4 名派遣)
共 済 費	157,611,793	120.1	131,237,718	80.4	163,328,220	議員、理事者、職員 76 名 (内 4 名派遣) 臨時職員
小 計	568,814,624	103.8	548,008,225	91.4	668,231,415	
賃 金	167,328,091	94.2	177,684,572	114.1	155,769,574	臨時職員 24 名他
計	797,451,120	101.1	788,476,074	95.7	824,000,989	

## ま と め

長野県北部地震の大災害から平成 29 年の台風災害、30 年の長野県北部を震源地とする地震、令和元年の台風 19 号による甚大な災害が発生し、その復旧工事も今年度で終了という時に、コロナウイルスという得体の知れない菌が世界中に蔓延し猛威をふるっています。

一つの要因で、世界中の政治経済、文化芸術活動が麻痺してしまいました。今後も、どんな要因で日常生活等が変化するかわかりません。

東京都はコロナ対策に膨大な量の基金をつぎ込みました。基金の積立という重要性をあらためて感じました。

北部地震以来、財政規模が膨らみここ数年当村の財政規模の見直し等が論議され、村長の答弁では27億円程度が望ましいということでありました。

財政規模を縮小するという事は、村民へのサービスを現行維持のままとすると、多方面に渡り見直し等が必要になってきます。昨年も書きましたが宿泊施設等の建物の修理費用及び既存の器具備品の修繕及び買換え等に係る費用が大きく、今後も懸念されます。

村営の宿泊施設をどうするか検討することも必要と思われれます。

また、村営住宅等も今後修理修繕の費用が懸念され、募集をかけても空きが出ている状況です。老朽化した住宅は解体している状況ですが、住宅等の数を検討することも必要と思われれます。

もう一方では、特別会計への一般会計からの繰入金の問題です。特にスキー場特別会計への繰入金は議会でも取り上げられていましたが、スキー場運営協議会や議会等のコンセンサスを得て早急な対応が望まれます。

働き方改革の施行が2年度から実施され、会計年度任用職員等の給与等の増加が見込まれましたが、大幅な増加とはなりませんでした。

国の財政が逼迫する中で、今後地方交付税が減少に向かう傾向にあると思えます。

令和元年度当初の基金残高合計は23億8千9百万円でした。年度中の予算積立と利子積立の1億3千万円に加えて、歳入歳出残高の3億4千万円から1億5千万円が基金に組み入れられましたが、取崩し等が3億8千5百万円ほどあり、基金残高は22億8千6百万円(いずれも一般会計)に減っており、基金の取崩しには一層の検討を望みます。

村の事業運営については、管理体制の充実、職員の働きやすく、充実感のある明るく健康的な職場環境づくりに心掛け、高齢化が進み人口減少の中で、知恵を出し・ずくを出して、村民に向き合って、栄村の繁栄に向けてのきめの細かい運営を期待いたします。

また、今年はコロナ禍の中、村民に対して村の積極的な対応を望みます。

一般会計、特別会計ともに正確に処理されていることを認めます。自主財源の少ない、厳しい財政事情の中で、産業の振興、健康、福祉、教育、克雪など住民の生活を守るための、きめの細かい施策を推進している事に対して深く敬意を表します。

税、基金貸付等の滞納整理等に努力が見られ、減少傾向にありますが引き続き回収方法等模索しながら未済額の解消を図るとともに、効率的で健全な財政運営を要望して決算審査の報告とします。

令和2年8月7日

栄村長 宮川 幹雄 様

栄村代表監査委員 山本 邦雄

栄村監査委員 上倉 敏夫